



看護師特定行為研修の実施にむけて取り組んでいます

集中治療部 副看護師長 えんどう あつや
クリティカルケア認定看護師 / 特定行為研修修了看護師 遠藤 篤也

看護師の特定行為は、診療の補助であり、実践的な理解力、思考力及び判断力並びに高度かつ専門的な知識及び技能が特に必要とされるものとして厚生労働省令で定められた21区分38行為のことをいいます。研修を修了した看護師は特定行為を医師の指示の下、手順書により実施することができます。

当院においては2020年に特定行為指定研修機関として認定され「創傷管理関連」、「栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連」、「血糖コントロールに係る薬剤投与関連」、「循環動態に係る薬剤投与関連」の4区分10行為の研修を受講することが可能となっています。現在までに当院の特定行為研修修了者7名、他の研修機関で研修を修了した看護師2名の計9名の看護師が特定行為の実践にむけて取り組んでいます。特定行為研修修了者は、急性期を担う当院においてクリティカル部門を中心に活動し、救命救急対応におけるチーム医療の役割を担っています。

特定行為研修を修了した看護師は、患者さんの状態を適切に見極め、必要な医療サービスを適切なタイミングで届けるなど、速やかに対応する役割が期待されています。また、今後の急性期医療から在宅医療等を支えていくことも求められています。

今年度は初めて院外からの研修生を受け入れ、現在6名が受講中です。e-learningを中心とした講義やグループワークなどの演習を終えて、いよいよ11月下旬より現場での実習が始まります。実習は患者さんに特定行為における同意書を得て行います。地域の皆様においては、ご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。



特定行為研修の授業風景

島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報

2022年12月15日～2023年1月14日 対象者： 一般 一般市民 医療 医療関係者 本学 本学教職員・学生

開催日	開催名	場所(★印 学外開催)	対象者	主催者
12/1(木)～ 2/28(火)	令和4年度 第3回肝臓病教室・家族支援講座	肝疾患相談・支援センター ホームページ上での動画配信	一般 医療	島根大学医学部附属病院 肝疾患相談・支援センター

詳細については、医学部・附属病院ホームページ【研修会・講演会・セミナー】をご覧ください。



NEWS



CONTENTS

- ・膠原病内科教授就任のご挨拶
- ・『島根県医療的ケア児支援センター』を開設しました
- ・看護師特定行為研修の実施にむけて取り組んでいます
- ・研修会・講演会・セミナー開催情報

膠原病内科 教授就任のご挨拶

膠原病内科 教授 いちのせ くにひろ
一瀬 邦弘

2022年11月1日付けで、膠原病内科教授を拝命いたしました、一瀬邦弘と申します。本紙面をお借りして就任のご挨拶を申し上げます。

私は長崎県長崎市の出身で、2000年に長崎大学を卒業し、母校の第一内科に入局致しました。関連病院で研鑽を積んだ後、2004年に岡山大学大学院医歯薬学総合研究科腎・免疫・内分泌代謝内科学教室に国内留学し、腎臓病研究や臨床に携わりました。また2008年9月に米国ハーバード大学ベス・イスラエル・ディーコネス医療センターに海外留学し、全身性エリテマトーデスを中心とした膠原病・リウマチ性疾患の研究に従事いたしました。帰国後は長崎大学病院リウマチ・膠原病内科の教員として、診療、教育、研究に取り組みながら、学長補佐として分野横断研究のプラットフォーム策定などの大学の政策企画にも関わってまいりました。



関節リウマチを始めとする自己免疫疾患は、まだ直接的な原因は明らかとなっておりますが、いくつかの「遺伝的要素」が重なり、さらにウイルス感染、ストレス、喫煙などの「環境による刺激」が加わることで発症すると考えられています。最近では自己免疫疾患の高年齢化が進み、加齢や治療による臓器機能変化や予備能力低下によってもたらされる、転倒・骨折・認知症・臓器合併症などの多様な病態への対応が求められています。

膠原病内科では、多臓器にわたる合併症が存在し、長期のフォローアップが必要です。このため、各診療科の先生方だけでなく、看護師、薬剤師、栄養士、理学・作業療法士、医療ソーシャルワーカーなどの多職種の皆様方と密に連携を図る必要があります。

鳥根県は東西200kmを超える国土面積を有しており、特に高齢の方の医療アクセスの問題が課題となっております。鳥根県民の皆様方に均質で安定した医療を届けられるように、様々な施策を通じて、貢献できるように努めてまいります。

まだ若輩者であります。皆様方のお力添えを賜りながら、鳥根県の医療のために尽力して行く所存です。どうぞご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

問い合わせ先 膠原病内科 事務室 TEL:0853-20-2196



『鳥根県医療的ケア児支援センター』を開設しました

医療的ケア児支援センター センター長 たけたに たけし
竹谷 健
医療的ケア児コーディネーター やた あきこ
矢田 昭子

生命を脅かす病気や障がいによって人工呼吸器による呼吸管理や、たんの吸引等の医療的ケアが日常的に必要なお子さん（医療的ケア児）やきょうだいを含めたご家族が、お子さんの心身の状況に応じた適切な支援を受けられようとするため、「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律」に基づき、2022年11月1日『鳥根県医療的ケア児支援センター』を当院に開設しました。

鳥根県医療的ケア児支援センターは、鳥根県全域に暮らしている医療的ケア児ときょうだいを含めたご家族の希望が叶えられ、笑顔の多い暮らしが少しでもできるように支援の手を届けます。

具体的な取り組みは、4つあります。1つ目は医療的ケア児とご家族の相談・支援です。相談には、多くの支援者と連携して対応します。さらに新生児集中治療室（NICU）などからの退院支援および退院後の生活支援、医療的ケア児のきょうだいへの支援なども実施します。2つ目は関係機関との連絡調整です。主な介護者が就労できるように保育所への入所支援や、医療的ケア児が住み慣れた地域で希望する学校へ通学できるように、医療・保健・福祉・教育との連携と調整を行います。3つ目は関係機関等への情報提供および研修です。主に支援者の相談対応、支援者のスキル向上を目指して研修会や事例検討会の開催や、医療的ケア児コーディネーターの養成などを行います。4つ目は災害支援体制の構築や移行期支援、鳥根県内どこでも均一した支援を提供できるような事例集の作成などを実践します。

鳥根県内で生活している医療的ケア児ときょうだいを含めた家族の人生を、多くの支援者と連携しながら応援したいと思います。



笑顔がいっぱい!!医療的ケア児であるお子さんとお母さん

問い合わせ先 医療的ケア児支援センター TEL:070-1263-2225



ご報告

危機的出血に対する輸血療法 (massive transfusion protocol:MTP) 大量輸血プロトコールについて

輸血部 部長	たけたに たけし 竹谷 健
副部長	いのうえ まさや 井上 政弥

出血性ショックなどの緊急時には、輸血前検査の結果を待たずに輸血が開始されます。このような危機的出血を伴う症例では、凝固因子の消費などにより、止血困難になりやすくなります。さらに、出血に対する治療として、大量の輸液や赤血球輸血が行われるため、凝固因子や血小板数の希釈性の低下も加わり、止血困難が増悪します。

この止血困難を防ぐために、赤血球輸血に加えて、早期からの先制的な新鮮凍結血漿と血小板製剤の投与が有効であるとされ、赤血球液：新鮮凍結血漿：血小板濃厚液を製剤単位あたり1：1：1の割合で投与する大量輸血プロトコール (massive transfusion protocol：MTP) が推奨されています (血液製剤の使用指針 厚生労働省・生活衛生局)。

当院では、2021年4月より、MTPプロトコールの運用を行っております。

MTPは、実際に診療しているチームが危機的出血の状態ですべて非常事態を宣言して発動されます。MTPにも対応できるように、輸血部と高度外傷センターにO型赤血球液を12単位と6単位、AB型新鮮凍結血漿を12単位と6単位それぞれ常備しています。また、血小板製剤や追加の製剤を速やかに提供できるように、在庫管理と血液センターとの連携を行っています。また高度外傷センターともアクションカードを導入するなど、より安全に実施できるための改善を行っています。

MTPを含め輸血部の業務は他部署、多職種の協力によって成り立っています。院外の先生方やメディカルスタッフの皆様にも適切かつ安全な輸血療法の推進のために引き続きご理解・ご協力のほどよろしくお願い致します。

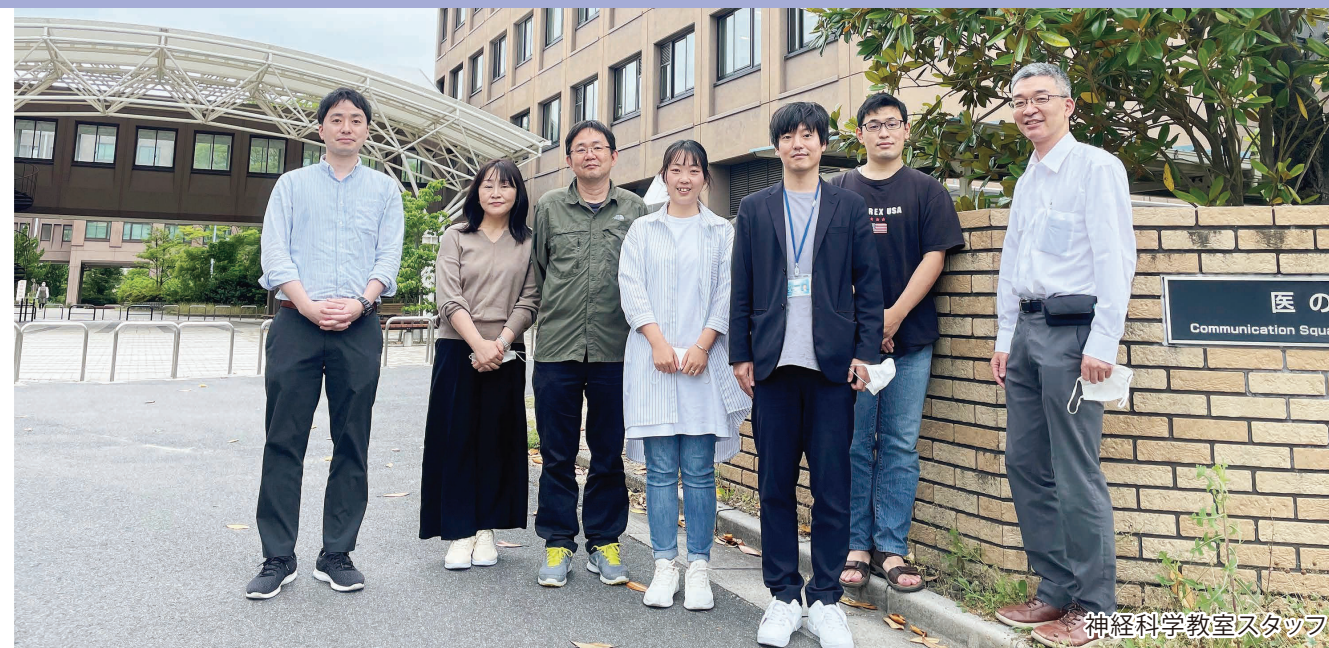
問合せ先 輸血部 TEL：0853-20-2421



当院のMTPプロトコールでは、赤血球液はO型を新鮮凍結血漿と血小板濃厚液はAB型を使用します。



ご報告



神経科学教室スタッフ

解剖学講座 神経科学教室のご紹介

解剖学講座 神経科学 教授 藤谷 昌司

解剖学講座神経科学の教授の藤谷と申します。島根大学医学部に赴任して4年の月日が経ちました。その間新型コロナウイルス感染症のパンデミックが全世界を混乱の渦に陥れ、地域の皆様においても大変のご苦労があったと思います。さまざまな病気で治療中の方におかれましては、心よりご快復をお祈り申し上げます。

最近の我々の講座のトピックについてご紹介させていただきます。

① 献体業務について

新たに本年7月20日よりCST(Cadaver Surgical Training)センターの技術職員1名が、我々の講座の教職員と共に献体業務に携わっています。

② 解剖学教育について

医学知識の最も基本となる解剖学ですが、低学年の医学生にとって医師としての心構え、倫理観、プロフェッショナリズムも同時に学ぶ最も重要な実習が解剖学実習です。また、CSTセンターの運営に積極的に関わり、日本国中の医師がCSTを通じて島根大学につどう、仕組み作りに貢献してきました。

③ 研究について

講座内では2つの研究グループで研究を行っています。藤谷グループが、神経系の難治疾患の病態解明と治療法の開発を行い、横田グループが、自律機能を制御する神経回路の解明のテーマで研究を行っています。病態モデル動物の解析のみならず、患者さまの脳組織や、血液細胞から樹立したヒトiPS細胞を用いて、統合的に難病の病態メカニズムを解明する研究や治療法開発を目指し日々努力しています。





ご報告

島大病院ニュース 2022年12月



ご報告

島大病院ニュース 2022年12月



出雲キャンパスクリーンデーの実施について

よねはら まさたか
会計課施設管理室 室長 米原 昌隆

例年、6月と10月に出雲キャンパスクリーンデー（構内一斉清掃作業）を実施しています。今年は酷暑のため、6月実施分は参加者の健康に配慮して天候の落ち着いた時期へ変更することとし、第1回を9月28日（水）に、第2回を11月9日（水）に実施しました。

出雲キャンパス全体の環境整備活動（学外ボランティアや教職員・学生有志により休日に実施する環境整備ボランティア）と連動して、多くの区域の景観が整うように清掃を行いました。

第1回は快適な気候の中、約120名の職員が、医学部の建物周辺、西門からの進入路周辺、当院南側や看護師宿舎周辺の除草及び回収作業を行いました。

第2回も暮秋とは思えない小春日和の中、約80名の職員が、医学部会館、うさぎ保育所、小児家族宿泊施設（だんだんハウス）周辺で、事前に刈り払った草木の回収や落ち葉の回収作業を行いました。

なお、当日は新型コロナウイルス感染症予防のため、ソーシャルディスタンスに配慮しつつ、マスクを着用しての作業となりました。

参加していただいたみなさん、ありがとうございました。

問合せ先 会計課施設管理室 TEL：0853-20-2549



2022年12月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



2022年12月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



～全ての患者さん・ご家族へ質の高いエンドオブライフケアを提供できるように～ 「ELNEC-Jコアカリキュラム看護師教育プログラム」研修を開催しました

ふじい あいこ
緩和ケアセンター 看護師長 藤井 愛子

当院は、島根県のがん診療連携拠点病院の役割を担っています。島根県内の地域がん診療連携拠点病院と共に企画し、島根県内の看護師を対象に質の高いエンドオブライフケア提供のために、10月29日～30日に「ELNEC-J コアカリキュラム看護師教育プログラム」をオンラインで開催致しました。

がんのみならず、全ての患者さん・ご家族へ質の高いエンドオブライフケアを提供できるように、知識・技術を習得することを目的とした研修です。「痛み・症状マネジメント」、「文化への配慮」、「コミュニケーション・意思決定を支えるために」、「倫理的問題」、「喪失・悲嘆・死別」、「臨死期のケア」、「高齢者のエンドオブライフケア」などの包括的な学習ができるように、講義や事例検討のグループワークを計画し、学びをすぐに実践に活かすことができる内容と致しました。受講生からは「日々の看護の場面を振り返りながら講義を聴くことができ、研修の学びを患者さんやご家族に提供できるよう活かしていきたい」との感想がありました。研修会の最後には、「質の高いエンドオブライフケアの達成」にむけて、参加者全員が今後の取り組みを掲げました（写真）。

今後も、各病院間ではもとより地域と連携し、研修で学習した内容を活かしながらスキルアップを図り質の高いエンドオブライフケアを提供できるように取り組んでいきます。引き続きご支援のほどよろしくお願いいたします。

※ELNEC-Jとは End-of-Life Nursing Education Consortium-Japan の略称です。

問合せ先 緩和ケアセンター TEL：0853-20-2441



ご報告

総合診療医センター グッドデザイン賞金賞を受賞しました!

総合診療医センター センター長 しらいし よしひこ
白石 吉彦

高齢化先進県である島根で総合診療医養成の取り組みをソーシャルデザインとして2022年度グッドデザイン賞の一般向けの活動・取り組みにエントリーしました。

ものづくりのみならず、昨今は様々な社会問題に対する取り組みもエントリーがあります。

今年度は5,715のエントリーがあり、書類選考の1次審査を経て、パネルとインタビュー形式の2次審査でグッドデザイン100に選ばれました。3次審査は、その100の取り組みがそれぞれ4分間のオンラインプレゼンを行い20の金賞が選ばれます。下記の通り我々の取り組みをきちんと評価していただきました。

審査委員の評価

全国的に地域医療の従事者が少ないという背景の中、医学部の中にできた「総合診療医養成プロジェクト」という新しい枠を活用し地域医療従事者を増やそうとする仕組みと、関係性のデザインが素晴らしい。地域医療を担う医師が大学でも教え、また学生も地域に出ていくことで総合診療医のなり手を増やすにとどまらず、教育のネットワークがそのまま地域医療のネットワークとなり、地域での医療的課題やお互いの日常的な気づきも共有できている。地域医療の人材やネットワークが、そこに住む人の安心・安全を心理的にサポートしてくれることに繋がり、結果としてその地域に住みたい人を増やす公共的なインフラ価値を作っている。



左：坂口助教、右：白石センター長



Good Design 賞でのプレゼン

問合せ先 総合診療医センター TEL：0853-20-2217



ご報告



11月14日は世界糖尿病デーです!

内分泌代謝内科 講師 もりた みわ
守田 美和

私たちは今年で8回目の「出雲大社御本殿のブルーライトアップ」(写真1)を10月29日に開催しました。3年ぶりに日程を公開し実施することができ、ご協力・ご支援賜りました多くの方々に感謝申し上げます。御本殿ブルーライトアップに加え、今年も境内に医療スタッフで作成した「ブルーのライトの竹あかり」(写真2)展示を行いました。使用した竹あかりは、その後県内の医療機関などで巡回展示をさせて頂きました。YouTube生配信、インスタLIVEなども併用し多くの方にご覧いただくことができました。

11月14日の糖尿病デー当日には、ミニ講演会「しまねっこと学ぶ糖尿病」(写真3)をYouTube配信とインスタLIVEで開催しました。当院のスタッフ有志によるブラスバンド演奏、当院糖尿病友の会会長による歌、しまねっ、しまね Super 大使吉田君によるダンスもあり、盛り上がり、多くの方にご視聴いただきました。

また、9年ぶり6回目の世界糖尿病デー花火大会も開催しました(写真4・5)。天候にも恵まれ秋空のもと世界糖尿病デーのシンボルマークであるブルーサークルを含む花火を約200発打ち上げました。

本イベントが、「綺麗だった」「楽しかった」ととどまらず、ご覧いただいたみなさま、ご家族、みなさまの大切な方にとり、糖尿病のみならず健康について考えていただくきっかけになることを願っております。

YouTubeチャンネル「世界糖尿病デー in 出雲」においてアーカイブ配信をしておりますので、ぜひご覧ください。

問合せ先 内科学講座 内科学第一医局 TEL：0853-20-2183



YouTube チャンネル
「世界糖尿病デー in 出雲」





ご報告



3年ぶりの開催！市民フォーラムで 島根大学病院の最新治療を紹介しました

総務課企画調査係

コロナ禍の制限も緩和されつつある2022年の秋、当院は出雲市及び松江市で約3年ぶりの市民フォーラムを開催しました。「島根大学病院の最新治療」2022秋と題したフォーラムには両会場あわせて90名の参加者にお集まりいただき、市民の皆様との活発なコミュニケーションが行われ、有意義な時間を過ごさせていただきました。

参加者の皆さんは資料にメモをとりながら一言も聞きもらさぬよう熱心に耳を傾けておられ、質疑応答の時間にも多くの質問があり、講師は一つひとつ丁寧に回答しました。

この度の市民フォーラムでは、松江市民の皆様から「もっと松江市での会やフォーラム、PRをしてほしい」というご意見を伺い、当院は出雲市に拠点を置きつつも、全県域にくまなく期待される医療をお届けする使命がある、という思いを新たにしました。

アンケートでは、「島根大学病院には国内にまだないような高度な医療設備や進歩的なロボット手術が出来るので驚きました。最新治療について定期開催して頂きたい」、「島大病院が患者さんのために、最新の治療とチームによる厚い支援をされていることがよくわかった。地方に住んでいても安心と思った。真摯で誠実さが良く伝わったと思う」などの声が寄せられ、当院への期待がうかがわれるとともに、少しでも安心していただけた様子が感じられました。

市民の皆様にご温かく迎えていただき感謝申し上げますとともに、当院の最新治療を発信する講演が皆様の知識を深める機会となれば幸いです。今後も継続的に開催する予定です。

● 出雲会場

- ①「島根大学病院で行う最新治療の支援体制強化」 救急・集中治療調整管理センター長 高度外傷センター長 教授 渡部 広明
- ②「島根大学病院で治療する心臓病のメリット」 循環器内科 准教授 遠藤 昭博
- ③「島根大学病院だから提供できる安全な低侵襲手術の実際」 ロボット支援手術推進センター長 泌尿器科 教授 和田 耕一郎

● 松江会場

- ①「安心、安全な手術を受けていただくために」 集中治療部 准教授 二階 哲朗
- ②「山陰地方で唯一の小児心臓外科の役割」 小児心臓外科 講師 中田 朋宏
- ③「島根大学病院だから提供できる安全な低侵襲手術の実際」 ロボット支援手術推進センター長 泌尿器科 教授 和田 耕一郎

問合せ先 総務課 企画調査係 TEL : 0853-20-2019



ご報告

インドシアニングリーンによる 術中確認造影検査による血管形態確認



小児心臓外科 講師 なかた ともひろ
中田 朋宏

インドシアニンググリーン (ICG) とは赤外線蛍光を発生し、注射することで血管やリンパ管の形を確認することが出来、また肝機能検査などに用いられることもある薬液です。腹部外科、心臓血管外科、脳神経外科など様々な科の手術中において、血管の形態把握のために使用されていますが、小児に使用された報告はまだ少ないのが現状です。

患者さんは、完全大血管転位症の診断で、生後9日、3.4kgで動脈スイッチ手術（ジャテーン手術）を行いました（図1）。手術自体は順調に進み、人工心肺からも離脱したのですが、術中の経食道心エコー検査で、中等度の僧帽弁逆流症が指摘されました。手術前には無い逆流であり、手術の際に再建した冠状動脈に折れ曲がりや変形などが無いのか、ICGを使用して術中確認造影検査を行いました（図2）。もし冠状動脈の血流不全があると心機能が悪化し、弁逆流を生じることがあります。幸いなことに、冠状動脈は非常に綺麗に描出され、僧帽弁逆流も手術中から徐々に改善し、ICU 帰室時には微量にまで改善し、退院前には完全に消失していました。患者さんは術後約1か月の入院を経て、元気に退院となりました（図3）。

ICGは撮影には特殊なカメラを必要としますが、手術中にリアルタイムで血管の形態を評価することが出来、また副作用の少ない薬です。小児心臓外科領域においても、判断に迷う時などに使用することで、安全性を確保することが可能になります。

問合せ先 心臓血管外科 TEL : 0853-20-2225

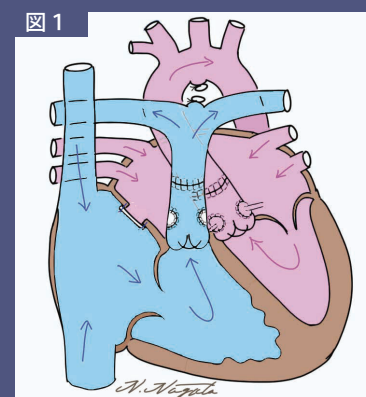


図1 ジャテーン手術模式図



図2 ICGを使用した術中確認造影



図3 退院前の造影CT検査
黄色色付け部分：左右冠動脈





ご報告

島大病院ニュース 2022年12月

中学生を対象にNICU看護師が講演を行いました 「NICU～赤ちゃんの命を守る現場から～」

総合周産期母子医療センター 助教 **あごう まこ** 吾郷 真子
NICU副看護師長 新生児集中ケア認定看護師 **もんじょう こ** 門城 すみ子

出雲市立第二中学校 PTA 研修部より「NICU について講演してほしい」と依頼があり、11月9日に中学1年生約180名を対象に「NICU～赤ちゃんの命を守る現場から～」と題して講演を行いました。「NICUって聞いたことがありますか?」の質問に手を挙げた生徒は数人で中学生にとってNICUとは未知の世界です。

日本の新生児医療の救命率は世界有数の高さであること、NICU (Neonatal Intensive Care Unit) とは生まれたばかりの赤ちゃんのための集中治療室であり、治療をしている赤ちゃんや医療者の様子、産科医、新生児科医、小児科医、外科系の医師が連携して赤ちゃんの集中治療を行っていること等について、写真や図を交えながら説明を行いました。

「小さい赤ちゃん」の大きさは、写真だけでは想像しにくいかもしれません。妊娠10か月で赤ちゃんはスイカ1個くらい、妊娠6か月だとグレープフルーツ1個くらいの重さであること、また300gで生まれた子の頭の大きさは、生徒の皆さんの握り拳の大きさくらいだった、と伝えました。そのような早く小さく生まれた赤ちゃんが生まれてから退院するまでの動画を上映したところ、生徒の皆さんはじっと動画を見つめ続け、大事なメッセージを受け取ってくれたようでした。講演後、生徒さんより、「お産は本当に大変なことだと思った」等の感想がありました。

この講演を通じ、少しでもNICUのこと、病気と闘いながら生きている赤ちゃんの存在や命の尊さを感じ取ってもらえたらと思います。

問合せ先 NICU TEL : 0853-20-2129



講演の様子



生徒への質問(クイズ形式)



11月17日は世界早産児デー。
多様性と思いやりを表す紫色がシンボルカラー



2022年12月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL : 0853-20-2068 FAX : 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



ご報告

島大病院ニュース 2022年12月

Genetic Counselor Awareness Week開催報告 ～遺伝カウンセラー啓発の取り組み～

臨床遺伝診療部 診療部長 **おにがた かずみち** 鬼形 和道
副看護師長/認定遺伝カウンセラー **あらかき こ** 荒木 もも子

11月は遺伝カウンセラー啓発月間です。臨床遺伝診療部では10月30日(日)～11月5日(土)を『Genetic Counselor Awareness Week』とし、『着床前遺伝学的検査(PGT)に関わるスタッフに必要な知識(10月30日)』、『一緒に考えよう「HBOC(遺伝性乳がん卵巣がん症候群)」医療における大切なこと(11月4日)』(写真1)を開催しました。また、11月1日には島根県内の認定遺伝カウンセラー4名全員でミーティングを実施しました(写真2)。

実は、島根県は認定遺伝カウンセラーの人口比率が全国で1位です。しかし県内の遺伝医療体制は都市部と比較すると遅れている部分はまだまだあります。ミーティングでは県内の体制整備、教育活動、日々の困りごとについて情報交換を行いました。遺伝/ゲノム医療が進むと、生命倫理の問題、山陰ならではの「知らないでいる権利」を守ることの困難さ、遺伝学的検査の結果解釈の困難さなど多様な問題にぶつかります。島根県では、「いでん」という言葉が、ネガティブに取られることも少なくありません。進展していく医療に対して、HBOC 当事者会：太宰理事長のお言葉にもあったように、「患者さんや家族の立場を全人的に考え、安全でかつ最新情報を提供できる支援体制を作る」ことが私達の使命であると考えております。今後とも、私どもの活動に協力いただけますと幸いです。



写真1
11月4日開催セミナー講師
左:当事者会 太宰 牧子氏
右:神戸中央市民病院 浦川 優作氏
認定遺伝カウンセラー



写真2
県内の認定遺伝カウンセラー全員でのミーティング

当院の認定遺伝カウンセラー

- 臨床遺伝診療部 副看護師長 荒木 もも子
- AB病棟3階 助産師 大越 寛子
- 産婦人科/しまね妊娠・出産相談センター 助産師 谷口 真紀

問合せ先

臨床遺伝診療部(小児科外来) TEL 0853-20-2383
E-mail : idsenshiane@med.shimane-u.ac.jp



2022年12月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL : 0853-20-2068 FAX : 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>

